

(証券コード 東証プライム：5957)

2022年12月期 第117期 決算説明会

NITTOSEIKO

Taking new steps forward together



2022年3月
健康経営銘柄
2年連続選定

2022年3月
なでしこ銘柄
初選定

1. 2022年12月期 第117期 業績概要
2. 2023年12月期 第118期 業績予想
3. 新中期経営計画
4. エンゲージメント向上
5. 拡販に向けた取り組み
6. セグメント別の取り組み
7. 経営の考え方

■ 説明者

代表取締役社長 材木 正己



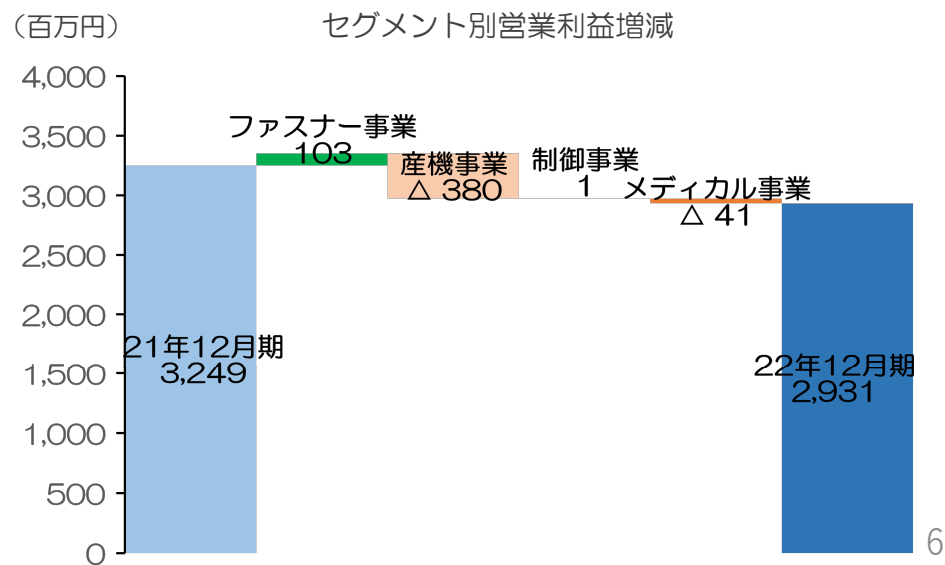
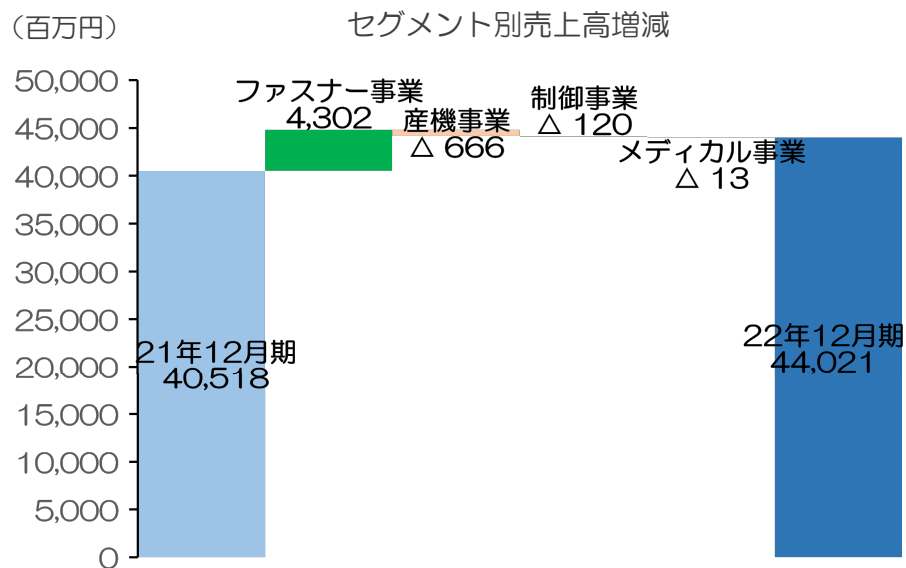
1. 2022年12月期 第117期 業績概要

単位：百万円／％	21年12月期		22年12月期		前期比		22年12月期 業績予想比（2022年11月11日）		
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率	予想金額	増減額	増減率
売上高	40,518	100.0	44,021	100.0	3,502	8.6	42,500	1,521	3.6
売上総利益	10,285	25.4	10,377	23.6	91	0.9			
販売管理費	7,035	17.4	7,445	16.9	409	5.8			
営業利益	3,249	8.0	2,931	6.7	△317	△9.8	3,400	△468	△13.8
経常利益	3,487	8.6	3,235	7.3	△252	△7.2	3,500	△264	△7.6
税金等調整前当期純利益	3,606	8.9	3,194	7.3	△412	△11.4			
親会社株主に帰属する当期純利益	2,200	5.4	1,828	4.2	△371	△16.9	2,200	△371	△16.9
一株当たり当期純利益（円）	59.63		49.50				59.54		

- 主要販売先である自動車関連業界における生産調整の影響を受けたものの、昨年4月に子会社化したケーエム精工、ピニングが売上拡大に貢献し、前期に引き続き過去最高売上高を更新。
- エネルギーや原材料価格の高騰、部品不足などの影響や、利益面で業績を牽引していた産機事業の設備投資の延期、凍結に伴う売上減少により、前期比減益。
- 海外は、一部で中国におけるロックダウンの影響を受けたものの、おおむね生産が回復。円安効果もあり、増収に寄与。

セグメント別売上高・営業利益（連結）

単位：百万円／％		21年12月期	22年12月期	前期比	
				増減額	増減率
ファスナー事業	売上高	27,896	32,199	4,302	15.4
	営業利益	1,545	1,648	103	6.7
	利益率	5.5	5.1		
産機事業	売上高	7,182	6,515	△666	△9.3
	営業利益	1,608	1,227	△380	△23.7
	利益率	22.4	18.8		
制御事業	売上高	5,416	5,296	△120	△2.2
	営業利益	156	157	1	0.7
	利益率	2.9	3.0		
メディカル事業	売上高	23	10	△13	△56.1
	営業利益	△61	△102	△41	—
	利益率	△256.3	△976.2		



単位：百万円／％	21年 12月期	22年 12月期	前期比	
	金額	金額	金額	増減率
売上高	27,896	32,199	4,302	15.4
自動車	10,287	11,417	1,129	11.0
住宅・建築	4,752	6,927	2,174	45.8
電機・電子部品	4,971	5,192	220	4.4
雑貨	2,825	2,776	△49	△1.7
IT・情報機器	1,232	1,603	371	30.1
精密機器	1,080	1,143	62	5.8
医療	349	324	△25	△7.2
エネルギー関連	131	165	33	25.4
その他	2,269	2,652	384	16.9
営業利益	1,545	1,648	103	6.7

- ・ケーエム精工およびピニングのM&Aによる売上加算に加え、依然好調なEV関連の需要や、マレーシアや工場拡張のインドネシアの需要増が増収増益に寄与。

◆自動車

- ・EV関連では、主力のギザタイトやCPグリップの需要が増し、アルミタイトやギア部品なども好調に推移。
また、ケーエム精工の子会社化によりナットなどの売上加算やインドネシアの貢献により好調に推移。

◆住宅・建築

- ・ケーエム精工のドリルねじや協栄製作所のナットなどが前期比売上大幅増に貢献。

◆電機・電子部品

- ・半導体不足による減産もコンタミ対策ねじのCPグリップやギザタイトなどの需要が堅調に推移。

◆雑貨

- ・ゲーム機市場は、半導体不足によるメーカーサイドの減産も、精密ねじなど高付加価値製品の需要増加により横ばい。

単位：百万円／％	21年 12月期	22年 12月期	前期比	
	金額	金額	金額	増減率
売上高	7,182	6,515	△666	△9.3
自動車	4,293	3,890	△403	△9.4
電機・電子部品	924	789	△134	△14.5
エネルギー関連	634	327	△306	△48.4
IT・情報機器	139	147	8	5.9
住宅・建築	314	135	△179	△57.2
遊技機	54	64	10	20.2
雑貨	61	33	△28	△46.3
医療	6	3	△3	△43.0
その他	757	1,127	369	48.9
営業利益	1,608	1,227	△380	△23.7

- ・自動車をはじめ半導体不足に伴う需要先の設備投資の凍結などの影響が大きく減収減益。
- ・省人化対応、環境配慮の新製品を投入し、拡販体制を強化。

◆自動車

- ・CASE関連、EV車関連のねじ締め設備をはじめ引き合いは依然としてあるものの、世界的な半導体不足の長期化や一部工場稼働停止の影響を受け控えめな設備投資により低調に推移。

◆電機・電子部品

- ・昨年より半導体設備の需要はあるものの、主要ユーザーの需要は昨年投資より限定的。結果、前期比大幅減。ただし、一昨年水準を上回る。

◆エネルギー関連

- ・昨年の特需の反動を受け、前期比大幅減になるも、一昨年水準を上回る。

◆IT・情報機器

- ・半導体不足による停滞感はあるものの、通信基地局関連、スマートフォン関連の需要が堅調に推移。

◆住宅・建築

- ・省人化に向けたねじ締めロボットなどの引き合いは増加するも、前期比大幅減。

単位：百万円/%	21年 12月期	22年 12月期	前期比	
	金額	金額	金額	増減率
売上高	5,416	5,296	△120	△2.2
化学・薬品	1,326	1,183	△142	△10.7
エネルギー関連	1,164	853	△310	△26.7
住宅・建築	553	548	△4	△0.9
自動車	365	367	2	0.6
電機・電子部品	204	305	100	49.4
造船	407	285	△122	△30.0
医療	24	134	109	456.1
その他	1,373	1,621	248	18.1
営業利益	156	157	1	0.7

- ・長引く半導体不足による需要先の生産調整などの影響を受けて減収増益となる。
- ・分析機器をはじめ海外での拡販強化に努め巻き返しを図る。

◆化学・薬品

- ・分析機器、流量計の需要はあるものの、半導体不足の影響を受け低調に推移。

◆エネルギー関連

- ・分析機器の需要はあるものの、半導体不足の影響を受け低調に推移。

◆住宅・建築

- ・地盤調査機「ジオカルテⅣ」への買い替え需要があるも売上高は横ばい。

◆自動車

- ・ナットの外觀寸法などを検査する部品検査装置「ミストル」や日東精工アナリティックの分析機器などの設備需要があるものの、前期比では横ばいとなる。

◆電機・電子部品

- ・半導体不足の影響も流量計や分析機器などの需要が好調に推移し大幅増。

◆造船

- ・海運関連の燃費性能規制により流量計などの需要は高いものの、前年同期比大幅減。

単位：百万円／％	21年 12月期	22年 12月期	前期比	
	金額	金額	金額	増減率
売上高	23	10	△13	△56.1
医療	23	10	△13	△56.1
その他	—	—	—	—
営業利益	△61	△102	△41	—

◆医療

- 「フリーレッド」は、引き合いがあるものの、本採用には至らず。コスト低減など市場ニーズに合わせた改良を行うとともに販社との情報交換による拡販体制の強化に努めた。
- 「医療用生体内溶解性高純度マグネシウム」は、一貫製造設備の整備並びに臨床試験に向けた試料の製作、性能試験を進め、上市に向けた早期の製品化の取り組みを推進。

海外業績概要（22年実績）

連結売上の約29.4%が海外

エリア	エリア別 売上高比率	対象国	前年比	コメント
東アジア (日本除く)	33.9%	中国	135%	ゲーム機向けねじ製品の需要が大幅増。加えて、電気・電子部品、IT・情報機器関連の需要も好調に推移。
		韓国	123%	自動車関連のねじ製品などの需要が堅調に推移。
		台湾	94%	ゲーム機、IT・情報機器、精密機器のねじ製品の需要は好調に推移するも、電気・電子部品、自動車の需要が低調に推移。
東南アジア	43.6%	タイ	99%	電気・電子部品、IT・情報機器向けねじ・ねじ締め機の需要や、住宅向けねじ締め機の需要は横ばい。
		マレーシア	130%	IT・情報機器、ゲーム機、自動車向けねじ製品の需要が好調に推移。
		インドネシア	133%	主力となる電気・電子部品関連の堅調な需要に加え、IT・精密機器、ゲーム機、自動車関連などの需要が好調に推移。
北米	16.1%	USA	185%	ねじ締め機をはじめとする自動車関連の生産設備需要が好調に推移。
欧州	3.6%	---	98%	分析装置などの需要は横ばい。
その他	2.7%	---	89%	---

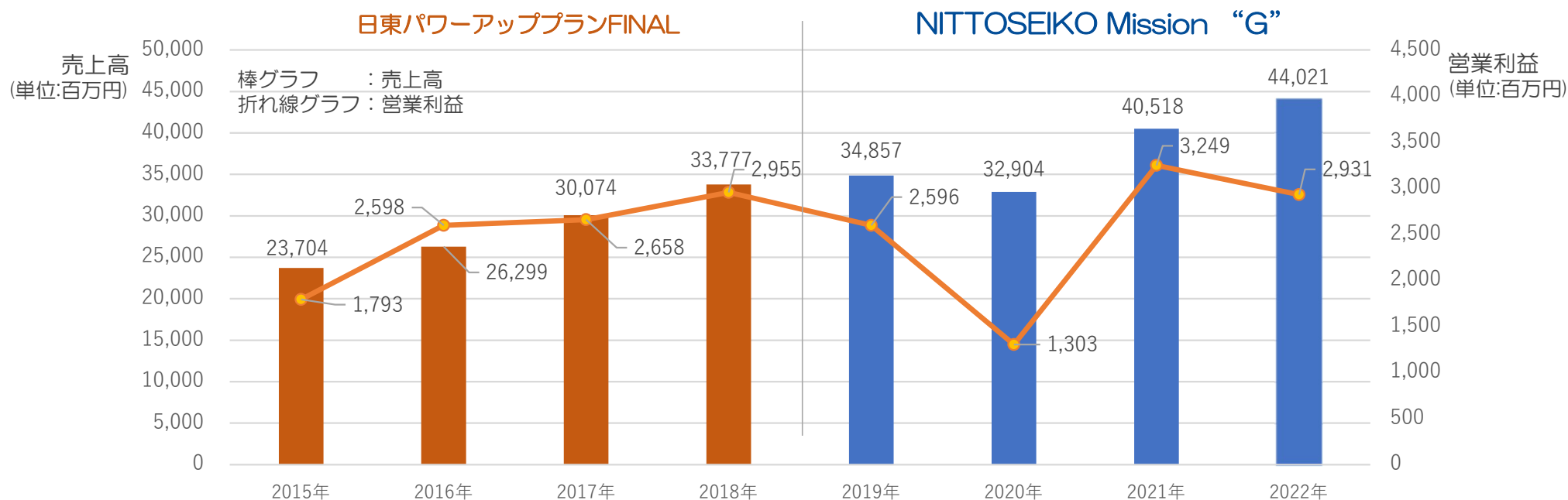
2022年12月期 第117期(連結)貸借対照表

単位：百万円／％	21年12月期		22年12月期		前期比	
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
資産の部						
流動資産合計	32,646	64.1	34,342	64.3	1,696	5.2
現金及び預金	11,415	22.4	9,098	17.0	△2,316	△20.3
受取手形・売掛金・電子記録債権	12,084	23.7	13,986	26.2	1,902	15.7
棚卸資産	7,926	15.6	10,081	18.9	2,155	27.2
固定資産合計	18,277	35.9	19,065	35.7	787	4.3
有形固定資産	13,092	25.7	14,085	26.4	993	7.6
無形固定資産	1,281	2.5	1,146	2.1	△134	△10.5
投資その他の資産	3,904	7.7	3,833	7.2	△71	△1.8
資産合計	50,924	100.0	53,408	100.0	2,484	4.9
負債の部						
流動負債合計	13,675	26.9	14,601	27.3	926	6.8
支払手形・買掛金・電子記録債務	8,069	15.8	9,015	16.9	945	11.7
短期借入金（一年以内返済の 長期借入・社債含む）	2,610	5.1	2,436	4.6	△173	△6.7
固定負債合計	4,546	8.9	4,304	8.1	△241	△5.3
負債合計	18,221	35.8	18,906	35.4	684	3.8
純資産の部						
資本金	3,522	6.9	3,522	6.6	－	－
資本・利益剰余金	26,993	53.0	28,208	52.8	1,215	4.5
自己株式	△1,254	△2.5	△1,246	△2.3	8	－
純資産合計	32,702	64.2	34,501	64.6	1,799	5.5

単位：百万円	21年12月期	22年12月期		
	金額	金額	増減額	増減率
営業活動によるCF ※①	3,650	999	△2,650	△72.6
投資活動によるCF ※②	△993	△1,987	△993	—
（フリーCF） ※①+②	2,657	△987	△3,644	—
財務活動によるCF	△704	△1,301	△596	—
現金及び現金同等物の増減額	2,136	△2,129	△4,266	—
現金及び現金同等物の期首残高	8,299	10,435	2,136	25.7
現金及び現金同等物の期末残高	10,435	8,305	△2,129	△20.4

中期経営計画との比較（連結）

単位：百万円／%	NITTOSEIKO Mission “G” 最終年度計画		NITTOSEIKO Mission “G” 最終年度結果		計画比	
	金額	売上高比率	金額	構成比	増減額	増減率
売上高	55,000	100.0	44,021	100.0	△10,979	△20.0
営業利益	4,705	8.6	2,931	6.7	△1,774	△37.7
当期純利益	2,200	5.4	1,828	4.2	△371	△16.9



●売上高・営業利益・純利益ともに、コロナ禍のために一部施策を一時中断したことや、原材料の高騰、長期化する半導体不足の影響などにより事業計画未達。

2. 2023年12月期 第118期業績予想

本資料に掲載されている業績見通し等に関する将来の予測は、当社が現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断する一定の前提に基づき作成したものであり、実際の業績等は、今後様々な要因によりこの見通しと異なる場合があります。

2023年12月期（連結）業績予想

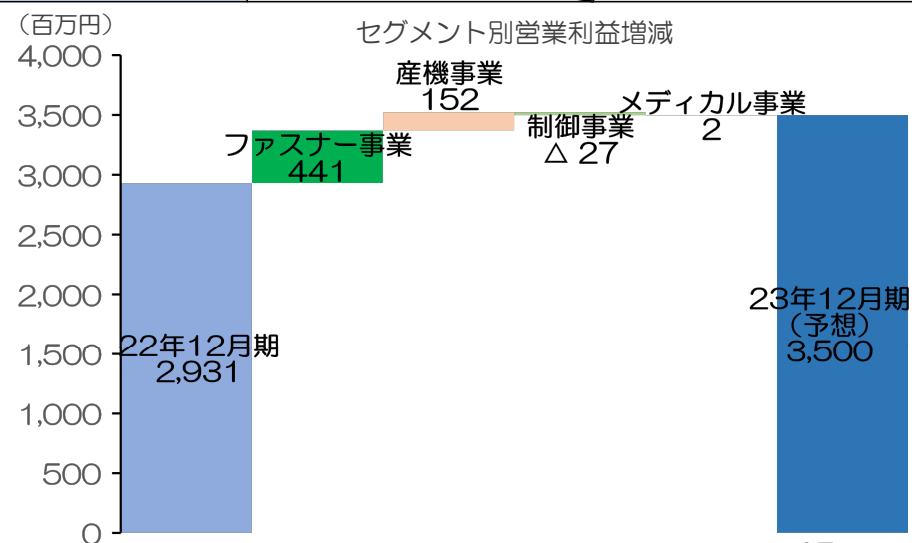
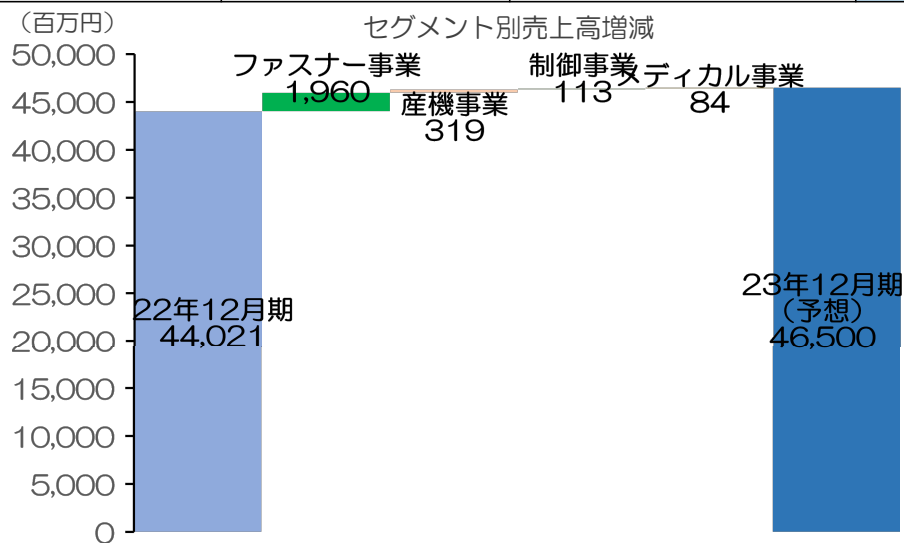


単位：百万円／％	22年12月期		23年12月期（予想）		前期比	
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
売上高	44,021	100.0	46,500	100.0	2,478	5.6
営業利益	2,931	6.7	3,500	7.5	568	19.4
経常利益	3,235	7.3	3,700	8.0	464	14.4
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,828	4.2	2,200	4.7	371	20.3
一株当たり当期純利益（円）	49.50		59.54			

- 半導体不足の影響は残るものの、活況なEVやECU関連など自動車業界の需要増加に加え、コロナ禍からの脱却による需要の増加を見込み増収を予想。
- ファスナー製品は、EV化・軽量化の流れにより、コンタミ対策の機能ねじの需要増加に加え、電機・電子部品業界向け樹脂用ねじ製品なども好調に推移すると予想。
- ねじ締め機関連では、活況な自動車業界のCASE関連設備の受注に向けた販売体制強化を図り、売上増加を見込む。
- 分析機器関連では化学・医薬品・食品、自動車、エネルギー業界の需要増、検査機関連では省人化や自動化のニーズにより、堅調に推移する見込み。
- メディカル事業は、「医療用生体内溶解性高純度マグネシウムインプラント」の製造設備の整備並びに非臨床試験、臨床試験や、医療機器開発・拡販に向けた販社との連携強化を推進する。
- 欧州市場における販売拡大や非日系ユーザへの拡販を推進し、当社グループ内における海外販売拡大に努める。

セグメント別売上高・営業利益予想（連結）

単位：百万円／%		22年12月期	23年12月期 (予想)	前期比	
				増減額	増減率
ファスナー事業	売上高	32,199	34,160	1,960	6.1
	営業利益	1,648	2,090	441	26.8
	利益率	5.1	6.1		
産機事業	売上高	6,515	6,835	319	4.9
	営業利益	1,227	1,380	152	12.4
	利益率	18.8	20.2		
制御事業	売上高	5,296	5,410	113	2.2
	営業利益	157	130	△27	△17.6
	利益率	3.0	2.5		
メディカル事業	売上高	10	95	84	808.5
	営業利益	△102	△100	2	—
	利益率	△976.2	△105.3		



種まき経営の実践：NITTOSEIKO Mission “G” 4年間で年平均30億円を継続投資

今後は新中期経営計画に基づき、さらに投資効果を高めます。

単位：百万円	19年12月期	20年12月期	21年12月期	22年12月期	23年12月期 (計画)
	金額	金額	金額	金額	金額
設備投資	2,002	1,313	1,171	1,122	1,235
M&A	0	2,000	0	2,133	—
研究開発費	495	630	715	764	800
合計	2,497	3,943	1,886	4,019	—
(減価償却費)	1,037	1,176	1,294	1,421	1,380

設備投資の主な用途（2022年度）

加工品質向上に向けた
設備更新



縦型マシニング
センターの導入

熱処理品質向上に向けた
設備更新



浸炭処理ガス生成用
変成炉の導入

作業効率向上のための
新規設備の導入

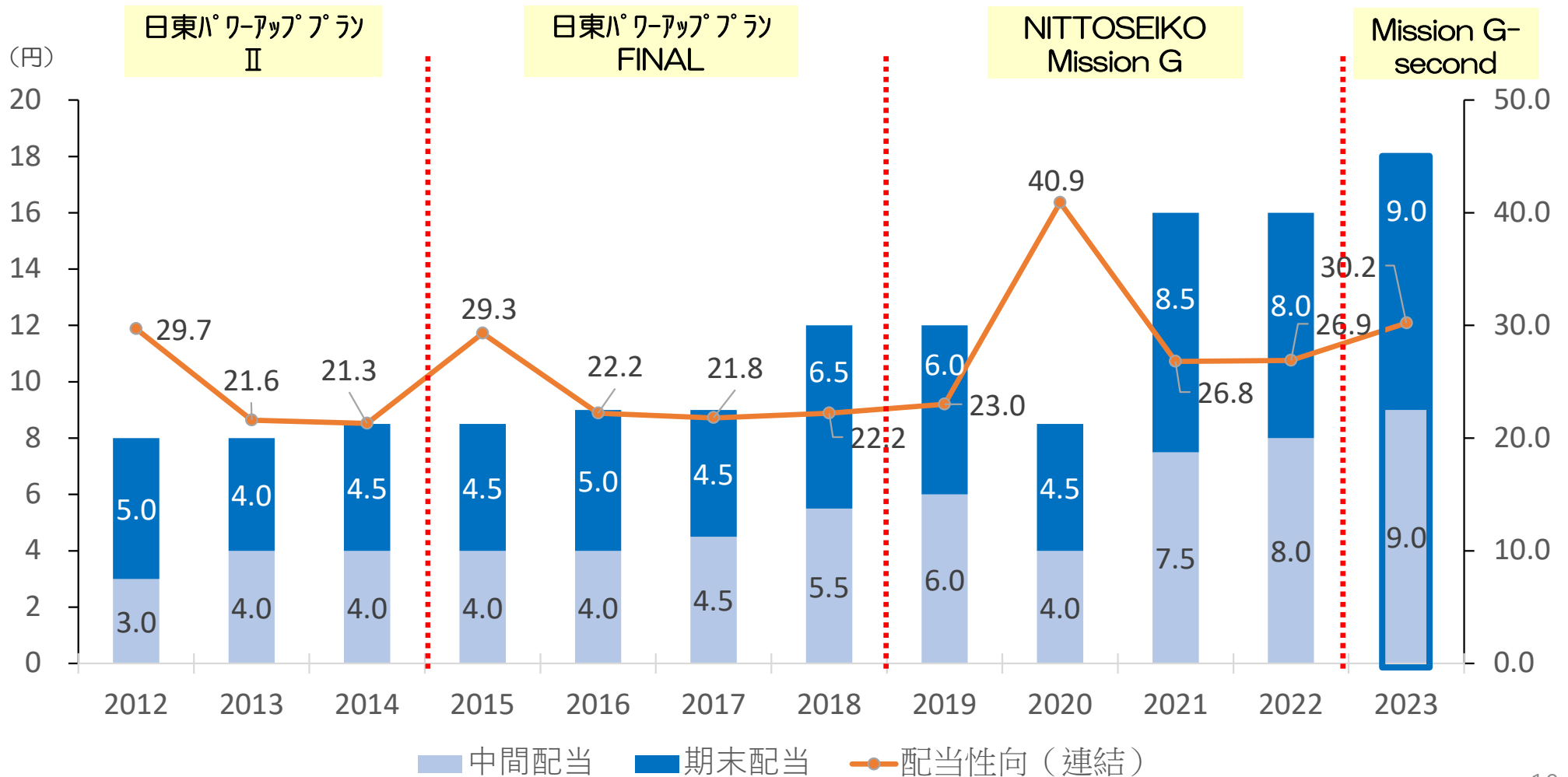


ポータブル3次元
測定器の導入

■利益配分に関する基本方針：

株主に対する利益還元 = 業績に見合った安定的な配当の継続

中間配当：9.0円 } 年間18.0円の配当を予定
 期末配当：9.0円



3. 新中期経営計画

～Mission G-second（2023-2025）の概要～

経営ビジョン

『世界中で認められ、求められる「モノづくりソリューショングループ」を目指す』

戦略テーマ

4つの成長戦略で持続可能なグループへ

GROWTH#1 事業拡大戦略

- ▶ コア・コンピタンスを活かした事業別成長戦略
- ▶ お客さま目線のソリューション活動
- ▶ 事業拡大、経営効率のためのグループ最適化

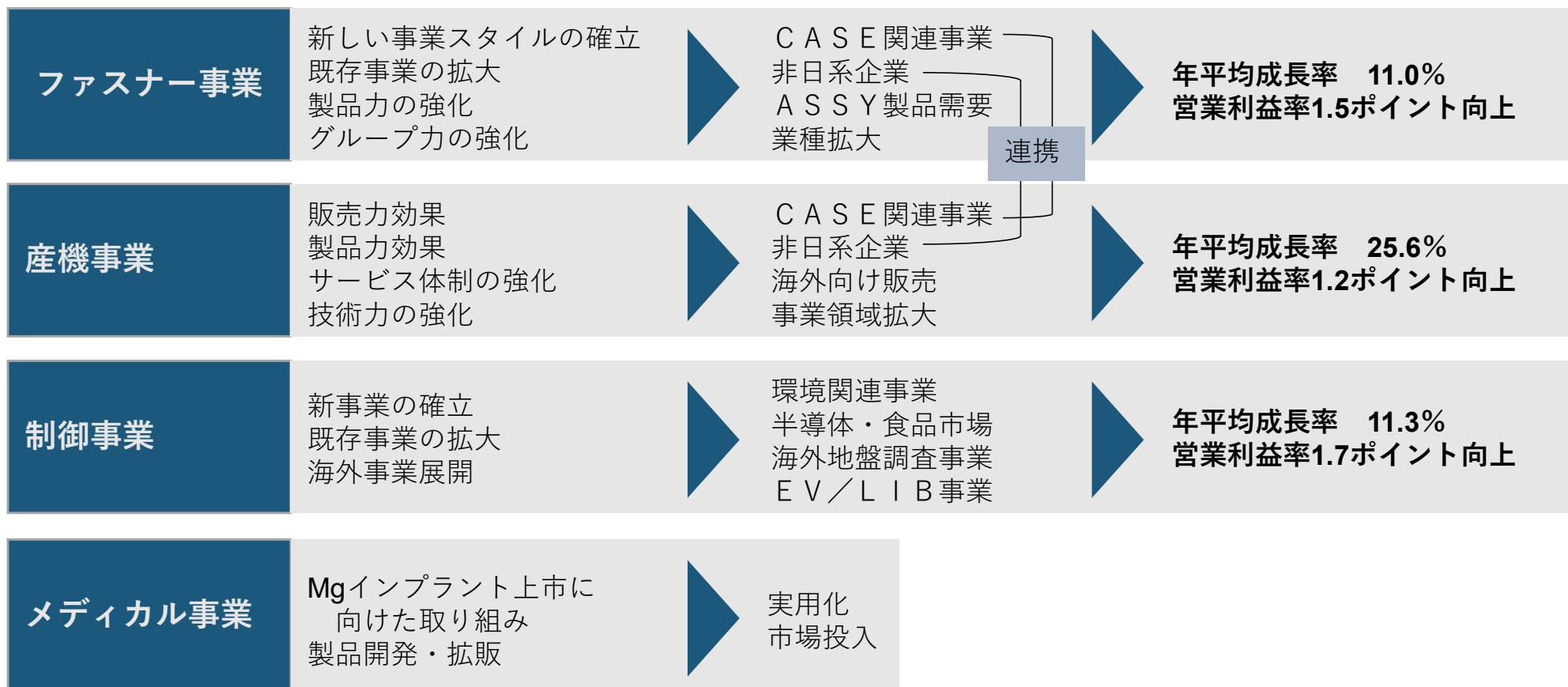
2022年度実績（百万円）

売上高	44,021
営業利益	2,931

2025年度目標（百万円）

売上高	60,000
営業利益	5,160

各セグメントの強みを活かした成長戦略を実践



GROWTH#2 環境戦略

- ▶ 事業活動全てにおける環境への対応
- ▶ 持続可能な社会につながる地方創生活動
- ▶ 経営改善につながるガバナンス体制の強化

2025年度
CO₂削減率12%
(2019年比)

2025年度廃棄量
原単位5%減
(2019年比)

内外の環境対応



GROWTH#4 財務戦略

- ▶ 資金管理の最適化による財務体質の向上
- ▶ 指標管理による投資効率の追求
- ▶ QCD向上につながるDXの実践

2022年度実績		2025年度目標	
ROIC	5.4%	ROIC	8%以上
ROE	5.9%	ROE	9%以上

投資効率の最大化

税引前営業利益

売上拡大

- ・ 成長事業への拡販
- ・ 事業領域の拡大
- ・ 販売エリアの拡大

販管費率の削減

- ・ 事業PFの最適化
- ・ 情報管理の効率化
- ・ IT・RPAの推進
- ・ 販売管理の効率化

売上原価率の削減

- ・ 高付加価値製品の開発
- ・ 生産性の向上
- ・ 購買調達効率化
- ・ ロスの削減

投下資本回転率

運転資本回転率の向上

- ・ 債権管理の強化
- ・ 在庫管理の適正化
- ・ 歩留ロスの削減

固定資産回転率の向上

- ・ 生産設備能力の向上
- ・ 設備の統廃合
- ・ グループ生産の効率化
- ・ 不動産の最適化
- ・ 政策保有株式の見直し

資本コストの削減

- ・ CMSによる負債の圧縮
- ・ リスク分析と開示

投下資本
利益率
ROIC
8%以上

自己資本
利益率
ROE
9%以上

FY2022
WACC 6.7%

4. エンゲージメント向上

健康経営

Nicotto7

Nicotto7は、生活習慣病対策、メンタルヘルス、ワークライフバランスの改善を含む7つの項目を設定した自社独自の取り組みです。全従業員参加で活力ある職場づくりを展開中です。当社健康経営に関する外部取材も多数受けました。



認定・受賞歴

健康経営銘柄2022 & 令和3年度「なでしこ銘柄」ダブル選定！！

- 2022年3月（日東精工(株)）

ダブル選定は全国で9社のみ。



健康経営優良法人2022

- 2022年3月（日東精工(株),日東公進(株),日東精工SWIMMY(株)）



スポーツエールカンパニー2023

- 2023年2月（日東精工(株),日東公進(株) グループダブル認定2年連続）



地方創生

ネーミングライツ

- ①あやべ・日東精工アリーナ（武道場・競技場）2019年8月～
- ②あやべ・日東精工スタジアム（野球場）2022年1月～
2022年7月 小学生対象野球教室（ゲスト講師：井川慶氏 プロ野球OB）

モデルフォレスト他

2022年5月、由良川河川敷のごみを拾い集める「由良川クリーン作戦」に参加。
2022年6月、綾部市上林地区の森林保護のため、笹や下草の除去を実施。

5. 拡販に向けた取り組み

～欧州&国内での拡販～

HANNOVER MESSE 2022



会 期 2022/5/30~6/2

来 場 者 約7万5千名

出 展 社 約2,000社

展 示 場 所 自動車関連・ロボット
関連のホール

*日本からの出展は当社含め8社

EV機器を中心にニーズが高い コンタミ対策製品を提案

昨年5月出展



コンタミ対策ユニット搭載
ねじ締めロボット



コンタミ飛散防止ねじ
CPグリッパ

【今後の展開】

「ねじ」「ねじ締め機」「分析装置」の欧州における販路拡大、ならびに販売網の構築を、展示会出展や本年4/1より欧州ドイツにて営業開始となる当社グループ「日東精工アナリテックヨーロッパ」との連携を図りながら推進していきます。

Fastener Fair Global 2023



会 期 2023/3/21~23

会 場 Messe Stuttgart(ドイツ)
ホールNo.7
ブースNo.3542

来場者 約1万2千名(2019年実績)

出展社 987社(2019年実績)

ねじ部品に特化した欧州展に出展！



【展示予定】

- 切粉粘着型ねじ「CPグリップ」
- 樹脂用タッピンねじ「ギザタイト」
- アルミ用タッピンねじ「アルミタイト」
- 薄板対応圧入型スタッドボルト
「JOISTUD-S」
「JOISTUD-HT(耐トルク)」 *新製品
「JOISTUD-SS(省スペース)」 *新製品
「JOISTUD-WP(防水タイプ)」 *新製品
- コスト低減ピン「Gピン」
- 異種金属接合「AKROSE」
- 軽量化ねじ締めツール「FM514シリーズ」
- グループ(株)伸和精工「精密プレス部品各種」

本年3月
出展予定

日東精工グループの強みである締結部品と締結技術の両面を欧州自動車・電機電子メーカを重点に訴求。

欧州での認知度向上・拡販に取り組めます。

オートモーティブ ワールド 2023



第13回 **クルマの軽量化技術展**

会 期 2023/1/25~27

会 場 東京ビッグサイト

来場者 113,028名
*同時開催展含む

3年ぶりの出展！ 会期初日 新製品リリース！

本年1月出展

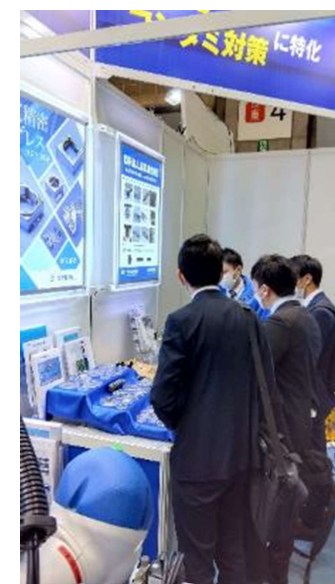


リリース直後の新製品
展示コーナー



ファスナー製品ジョイスタッドと
コンタミ対策ねじ締め機の展示

会期終了直後より来場者への
訪問など迅速に実施。
来場者フォローとともに、各
地区ユーザの課題解決提案と
情報提供に注力し、新規案件
を多数獲得しました。



当社グループ展示コーナー
「伸和精工」「ケーエム精工」

事業拡大戦略を独自の「漁業理論」で実践しています。

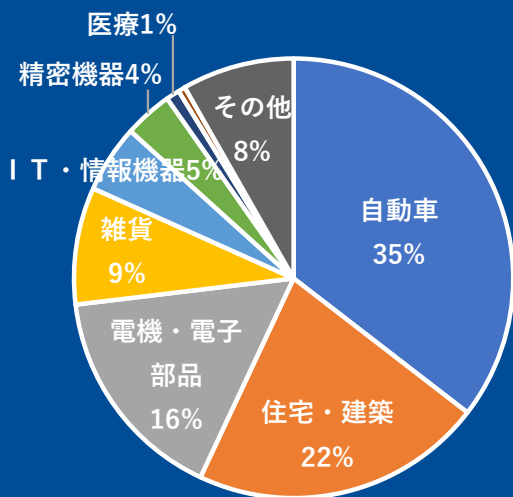
テーマ	考え方	チェック事項	
漁場	どこに魚がいるのか	今の漁場にほしい分以上の量がいるのか	足りなければどこの漁場へ移るべきか
魚種	その漁場にどんな魚がいるのか	自分のほしい魚の種類がそこにいるのか	ほかにどんな魚がいるのか知っているか
選択	どんな魚をとるの	どの魚をとりたいのか	それを選択する理由は
餌	餌はなにを使っているのか	どのような餌を準備しているのか	とりたい魚とその餌は合っているのか
道具	使用している道具はなにか	道具はいくつもち合わせているか	選んだ魚種にその道具が適しているのか
漁師	とるための人員は十分か	人数は十分か	とる量やエリアの広さに適しているのか
技術	とる技術はあるのか	作戦と準備は完璧か	腕は十分か
釣果	計画通りにとれているのか	釣果が得られない場合、足りないものはなにか	作戦通りに行動できたか

6. セグメント別の取り組み

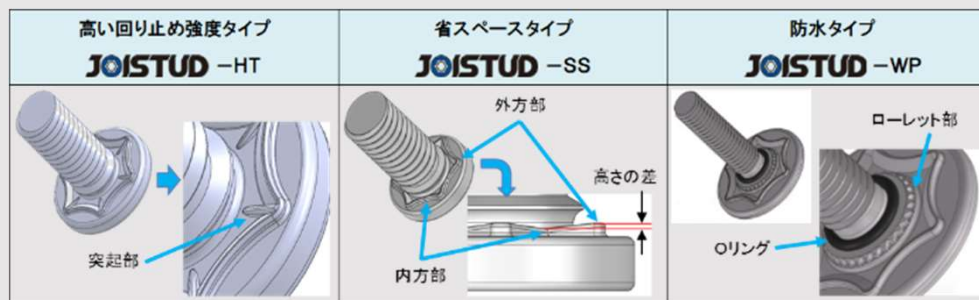
～ ファスナー事業 ～

需要先別売上高構成
(連結)

2022年12月期



軽量化による薄板への圧入も反り・バリを軽減
クリンチングスタッド **JOISTUD 3シリーズ**



本年1月
販売開始

耐トルク・省スペース・防水と用途に応じた3タイプ。低燃費・Co2削減に向けた軽量化の新アイテムとして。

樹脂用セルフタッピンねじ
ギザタイト

特殊なねじ山形状により、振動や温度変化による緩みの発生を防止。軽量化による部品の樹脂化に対応します。



軟質金属用セルフタッピンねじ
アルミタイト

アルミダイキャストへのねじ込み時に生じやすい焼付きを防止。ワークの破損などの歩留まり問題・コスト問題を解消します。



ターゲット

電動化 (電子部品)

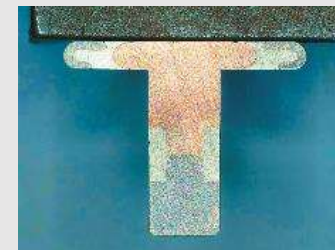


ねじ切粉粘着型ねじ
CPグリップ



ねじ込み時におねじ表面にオイル系粘液がねじ先端部にじみ出し、鉄粉や摩擦粉を粘着。基板を内蔵する電動部品のねじとして自動車・IT・精密機器など、電動化の流れに合致する機能ねじです。

異種金属結合 複数の素材同士を強固に原子レベルで接合する新技術
AKROSE HYBRID



「軽量化」
「環境負荷低減」
「新生活様式」

ターゲット業界の見通し

自動車

- 半導体不足による生産台数減の挽回で上向きを予想。
- 各社EV化に向けた開発の着手により、**電池、ECU、センサー**関連がより活況になる予想。
- **軽量化**や**環境負荷**の**課題解決**のため、当社オリジナルのタッピンねじやクリンチングスタッドボルト「ジョイス タッド」など受注拡大。

見通し

上昇

住宅・建築

- 住宅設備向けのねじ製品や給湯器関連などの需要は引き続き好調と予想。
- 2025大阪万博に向けて今年から**建築用ボルト**が増加する予想。

やや上昇

電気・電子部品

- 海外は大量品、国内は高付加価値製品をターゲットに受注拡大ならびに**利益率UP**を見込む。
- 異種金属接合技術「AKROSE」の横展開を含め従来工法を変える**新たな市場への拡大**を目指す。

横ばい

雑貨

- **ゲーム機**をはじめ**自転車/釣り具/時計**等、生活様式の変化に伴う需要は継続するものの、ウィズコロナにより巣ごもり特需需要も落ち着き、緩やかに下降の見込み。

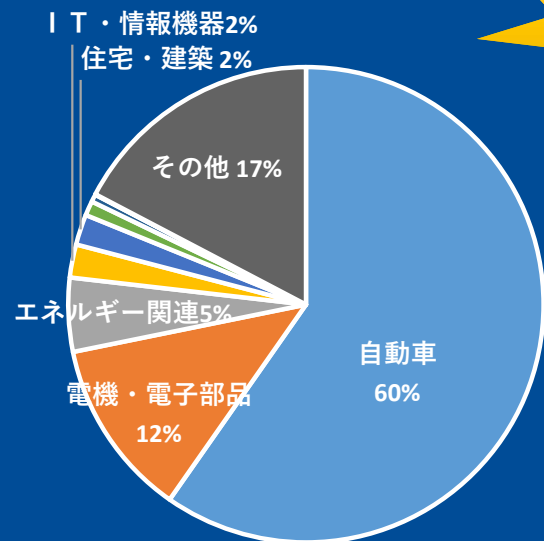
やや下降

6. セグメント別の取り組み

～ 産機事業 ～

需要先別売上高構成
(連結)

2022年12月期



ターゲット

自動車
電機・電子部品

協働ロボット専用
ねじ締めツール
PD400シリーズ

2021年8月
販売開始



UNIVERSAL ROBOTS

昨今の労働力不足で注目を浴びる協働ロボット。
3社の協働ロボットに搭載可能な専用ねじ締めツールを開発。
人手不足解消製品として絶賛PR中。
その他メーカーとのコラボでラインナップ拡充も。

昨年10月
販売開始



FANUC

昨年10月
販売開始



YASKAWA

垂直多関節ねじ締めロボット
SR825ARシリーズ

昨年10月
販売開始

株式会社安川電機の垂直多関節ロボット
と弊社のねじ締めユニットとを融合した
コラボ製品

位置決めを行うロボットとねじ締めを行
うドライバの制御・設定を1台のロボッ
トコントローラで一括制御・設定するこ
とを実現



NITTOSEIKO X YASKAWA

軽量ねじ締めユニット FM514CZ/VZ

●重量従来比30%減

本ユニットを搭載するロボットを小型化できることで消費電力を削減可能
⇒ 年間Co2 0.35 t 削減 ※
※ 当社データに基づく試算

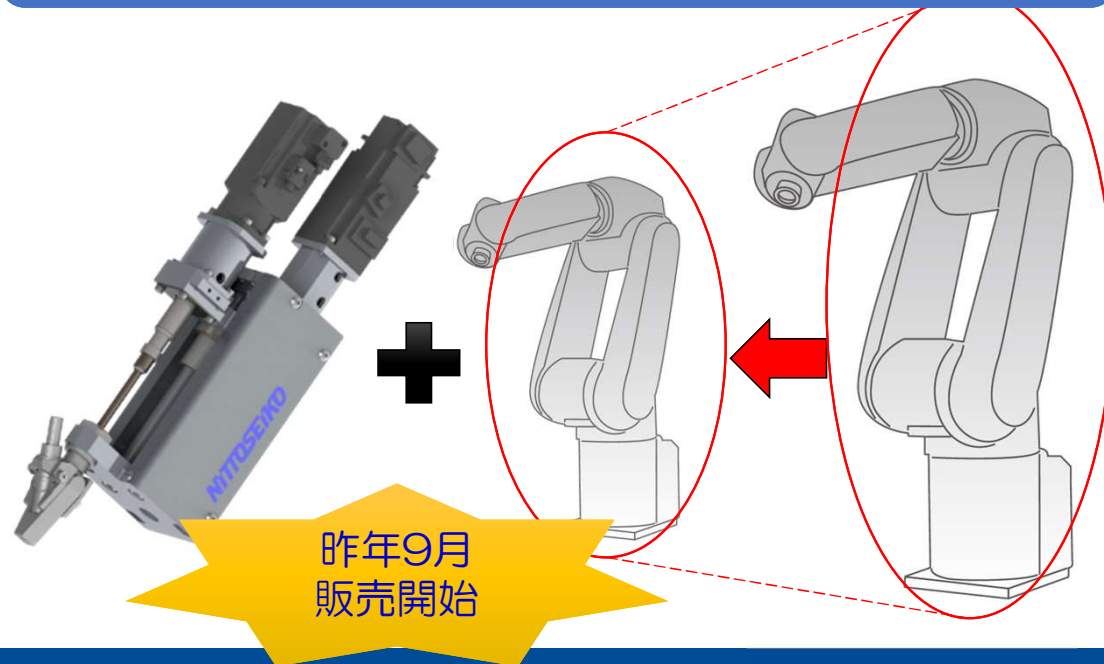
●推力制御機能付

締付けトルク、ねじ込み速度の個別設定可。
ワーク特性に応じた最適なねじ締め設定が可能に。

●ねじ圧送に対応

ねじ取り出し方式に比べ大幅な時間短縮を実現

新たな環境対応製品
自動車業界を重点ターゲットに！

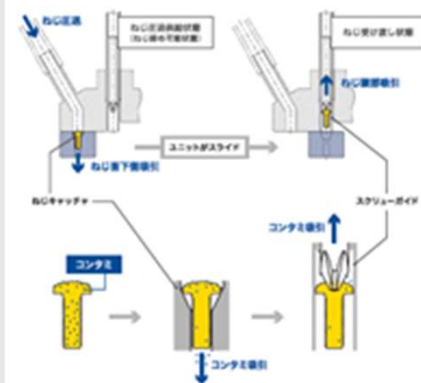


コンタミ対策 (電子部品)

金属粉などのコンタミ対策製品
コンタミ対策ねじ締め機



ねじなどに付着した金属粉などを締結直前にエア吸引によって除去。
エア圧送によりねじ供給可能なため、所定位置へ移動してねじを取り出す取出方式に比べて大幅な時間短縮を実現。



「人協働」
「エネルギー転換」
「労働力不足」
「ICT化」

ターゲット業界の見通し

自動車

- 新車種生産設備やEV・新エネルギー車向け設備の投資意欲は継続して高いと見込む。
- 国内外ともに商談、PR活動に注力し、新規顧客・新規案件の確保に努める。

見通し

やや上昇

電機・電子部品

- 半導体設備関連の需要は一部に一服感はあるものの引き続き堅調に推移すると予想。

横ばい

エネルギー関連

- 蓄電池用設備や公共計測機器の製造装置などの需要の高まりに期待。

横ばい

IT・情報機器

- 5Gなど通信基地局関連の設備投資に期待。

やや上昇

住宅・建築

- 給湯器関係での継続した受注に加え、ハウスメーカーからの新規設備や設備更新などの受注に期待。

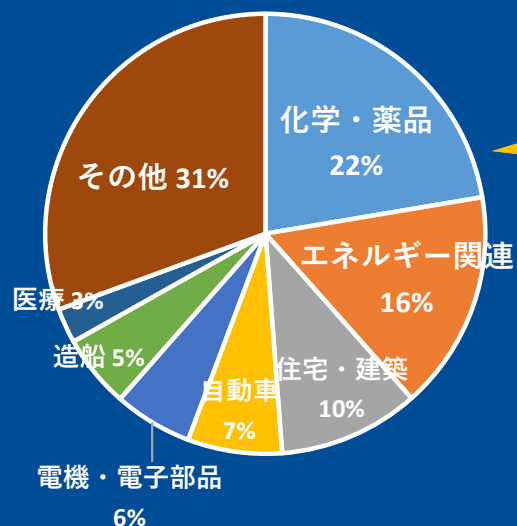
上昇

6. セグメント別の取り組み

～ 制御事業 ～

需要先別売上高構成 (連結)

2022年12月期



安価かつコンパクトな水専用流量計 小型アクアメータWE



昨年3月
販売開始

化学・食品・造船業界などあらゆる分野のメーカー様のご要望にこたえるため、**安価かつコンパクト**で信頼性の高い流量計を提供します。

電磁計測方式採用で流量計製品の充実 マグフロー

本年3月1日
販売開始



新たな電磁計測方式の電磁タイプをリリース。**製品ラインナップの拡充**でお客様のご要望にお応えします。

画像検査選別装置 ミストル・ミストルロボタイプ他

ナットやボルトなどの寸法や傷を毎分50~1000個と**高速検査**可能な標準タイプ。振動を嫌うワークをロボットにより**やさしく把持**し検査するロボタイプ。また、合否範囲設定容易な1月参考出展の**AIタイプ**のシリーズ化に着手。



業界スタンダードの地盤調査機 ジオカルテ



試験荷重の自動変更や各種試験結果収集などBlue Toothを用い試験者の負担を軽減。自動試験のため、**データ改ざん**なども予防。タイなど海外各国への展開も進行中。

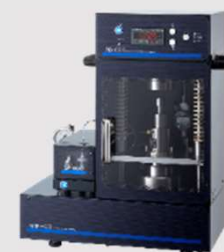
環境負荷低減 (環境汚染対応)

自動シリンジ内希釈システム搭載分析装置 NSX-5000Vシリーズ

作業効率化と低ランニングコストを実現。試料温調システムにより、揮発性液体試料の適正な採取、導入が可能。石油精製、石油化学、化学工業などの研究開発部門や品質管理部門への展開。



自動粉体抵抗測定システム MCP-PD600



粉体試料の導電性評価をスマートに実現。粉体の抵抗率とプレス密度を同時測定。簡便さと自動化により、研究開発から品質管理まで幅広く利用可能とした。リチウムイオン電池の電極など電子材料の評価に最適。

新たな理美容業界を ターゲット

理美容室向け シャワーシステムの開発

昨年10月
販売開始



【製品特徴】

- 高密度マイクロバブル
- プロの声を反映のシャワーヘッド
- 既存設備に外付け可能
- 消耗品などのコストが不要

【導入効果】

- きめ細かな泡の心地よさ
- ヘアカラー後の色移り抑制
- 大切な髪を守りながら洗浄
- 施術時間の短縮や節水
- ヘアカラーの質を向上

これまで培った当社マイクロバブル
生成技術を横展開。
今までにないシャワーシステムの
付加価値を追求しました。



通常の水



マイクロバブル
の水

直径1 μ m以上100 μ m未満の泡が水中に留まり白く見えます

「環境」
「高精度計測」
「安全性」

ターゲット業界の見通し

化学・薬品

- 分析機器の需要は、国内外ともに継続増加。
- **環境問題**などを背景に需要拡大に期待。

見通し

やや上昇

エネルギー

- カーボンニュートラルに向けた**新燃料への転換**を見込み、ガス燃料への切り替えによる分析機器や流量計の受注増加に期待。

上昇

住宅・建築

- 戸建て住宅向け地盤調査に新タイプのジオカルテIVへの買い替えも落ち着き横ばいを予想。
- **海外**の地盤調査機の**受注獲得の気配**に期待。

横ばい

自動車

- 作業員不足の解消を見据え**自動車部品メーカー向けの検査機**需要が好調と予想。
- 検査機の認知度を向上させるため**展示会への出展**などPR活動を展開し受注拡大を図る。

やや上昇

6. セグメント別の取り組み

～ メディカル事業 ～

世界初！ 医療用生体内溶解性 高純度マグネシウム



骨折治療用インプラント



特徴

- 99.95%以上の高純度マグネシウムで毒性なく高い安全性
- 生体内で一定期間経過後に溶解をはじめ、その後ゆるやかに長い時間をかけて完全溶解

進捗状況



開発の状況

- 大学病院様で兎による非臨床試験を開始しています。
- 各学会での研究発表
2022.10 共同研究先 京都府立医科大学 岡佳伸先生
2022.11 メディカル新規事業部 所属員
- 生物学的安全性試験・非臨床試験（動物実験）を年内完了予定で進めています。
- 現在、これら試験に適合するインプラントの選定作業中。

臨床試験に向け準備中

- 生物学的安全性試験の準備
- 動物実験
- 試験に関する手続き



量産体制の構築

- 量産用の設備投資
- 品質、性能の安定性確認

7. 経営の考え方

経営の考え方

- 1 お客様の要望に対して満足度120%対応を心がけています。
- 2 経営の目的は誰もが幸せになるウェルビーイングの追求です。
- 3 公益性社会貢献を創業の精神とし、持続可能な社会と企業を実現をめざします。
- 4 これらすべての実行のために強固な財務体質を確保します。